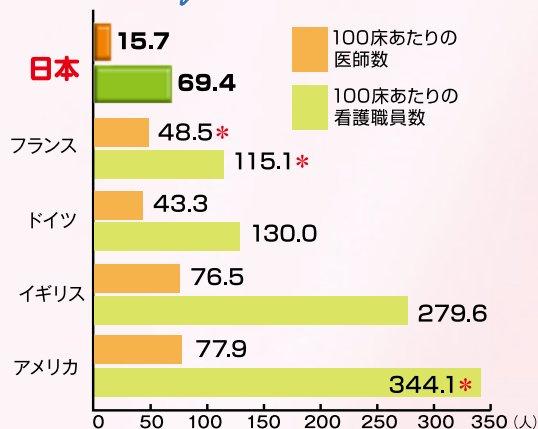


日本の医師・看護師不足は深刻です

こんなに少ない日本の医師・看護職員数



出典：「OECD Health Data 2010」

*は実際に臨床にあたる職員に加え研究機関等で勤務する職員を含む

夜間は看護師1人で15人から20人を担当

アメリカは5人に1人

●たとえば、アメリカのカリフォルニア州では看護師1人が何人の患者を受け持つか「最低人員配置比率法」で決められています。どの病院でも、どの時間でも下記の表の人員配置が法律で定められています。日本では多くの病院で夜勤は1人の看護師が、15人から20人の患者を担当しているのが現状です。

カリフォルニア州の「The Ratio法 (2004)」

診療科	最低人員配置基準
内科一外科	5 対 1
小児科	4 対 1
精神科	6 対 1

国際的にも高い日本の窓口負担

●日本の窓口負担は3割ですが、OECD諸国では、イギリス、ドイツなど13カ国は原則無料です。実質的に無料でない国は、日本と国民皆保険がないアメリカだけです。

窓口負担が原則無料の国	イギリス	ドイツ		
	イタリア	カナダ		
	デンマーク	オランダ		

など13カ国

窓口負担が軽い国	オーストラリア…入院は負担なし		
	フランス…3割だが補完的な制度で実質的負担はほとんどない		
	ノルウェー…入院は負担なし		
	フィンランド…18歳未満負担なし		
	ニュージーランド…入院は負担なし		

など12カ国

出典 OECD 編著「世界の医療改革制度」2004 / 明石書店 2005 年発行に加筆

私たちの要求(請願項目)

- 労働時間を1日8時間、勤務間隔12時間以上、週32時間以内に改善を！
- 医師・看護師・介護職員などの大幅増員を！
- 患者・利用者の自己負担を減らし、安全・安心の医療・介護の実現を！



私たちの署名にご協力下さい。

ii 医労連

あなたに知って
いただきたいこと

いのちを大切にしたいから
安全・安心の
医療・介護の
実現を！



ii 医労連
(日本医療労働組合連合会)

〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5 日本医療労働会館3階
TEL:03-3875-5871 FAX:03-3875-6270
ホームページ: <http://www.irouren.or.jp>

いのちを大切に
したいから

ナースコールには
すぐに対応したい

患者さんの元気に
なりたい気持ちを
応援したい

毎日、笑顔で
接したい

これは医療・介護の職場で働く
わたしたちの願いです

しかし
今、

人手不足による過密労働と過酷な長時間夜勤で、
医療の安全と働くものの健康が脅かされています。

7割以上の看護職員が慢性疲労をかかえ

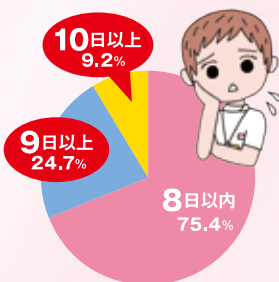
年間12万5千人が辞めていく...



1か月の夜勤回数が多い

●「夜勤日数を月8日以内に規制する」国の基本方針があります。しかし、依然として看護職員確保法・基本指針に抵触する月9日以上夜勤を行う看護師が全体の4分の1、10日以上夜勤を行う看護師も1割いるのが現状です。

夜勤日数別の人数と割合
(3交替病棟)



(2012年度夜勤実態調査)

次の仕事までの空き時間が異常に短い

●3交替には「日勤-深夜」、「準夜-日勤」という勤務間隔が8時間に満たないシフトがあります。このシフトでは残業や通勤に時間をとられ、十分に疲れがとれないまま再度出勤しなければなりません。



いのちをまもる職員に
十分な休息時間の確保を!

16時間夜勤は日本だけ 世界では非常識な長時間夜勤

●勤務間隔の短さや、夜勤日数の多さから「3交替よりまし」と2交替を選ぶ看護師もいます。しかし、多くの2交替は16時間を超える長時間夜勤となっています。

日本では、2交替の職場は増加傾向にありますが、2交替長時間夜勤は国際的にはまったく非常識な働き方で、世界の潮流に逆行しているのです。

2交替

例えば、
日勤/ 8:30 ~ 17:30
夜勤/ 16:30 ~ 9:00 等

3交替

例えば、
日勤/ 8:30 ~ 17:30
準夜勤/ 16:30 ~ 25:30
深夜勤/ 0:30 ~ 9:30 等

ILO(国際労働機関) 看護職員・勧告

1日の労働時間は8時間以内、
次の仕事までの間隔は12時間以上

この国際的な水準を実現するには
どうすればよいのでしょうか?

夜勤改善と
大幅増員を!



夜勤は有害!だから 法規制と保護が必要です!

① 安全リスク

作業能率が酒気帯び状態より低下!!

夜勤・長時間労働は心身に大きな負担をかけ、注意力が低下し、事故発生率を高めます。

② 健康リスク

夜勤・交替制勤務は、働く人のリスクを高めます。睡眠障害や循環器系障害の他、人工照明を夜間浴びることで、乳がんや前立腺がんの危険も指摘されています。

労働時間は
週32時間以内に!

「正循環」で 体に優しい3交替勤務を!

人間の生体リズムに逆行しない、「日勤→準夜→深夜」のように、時刻を遅らせていく「正循環」勤務を実現させましょう。

一週間の勤務の例

